

発達の段階を踏まえた志教育推進のための参考資料

～キャリア・パスポートの作成・活用について～

学習指導要領総則では、「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」について明示されており、キャリア・パスポートの活用促進が求められています。

県教育委員会では、平成22年から「みやぎの志教育」を推進してまいりました。志教育はキャリア教育の内容を包含していることから、令和2年2月に作成したリーフレット「夢を育み 志に高める みやぎの志教育」の中で、キャリア・パスポートの作成に「志シート」を活用できることを示し、発達の段階を踏まえた志教育の推進に資するものとして、キャリア・パスポートの活用を促してまいりました。

約3年が経過した現在、ほぼすべての小・中・高等学校、特別支援学校でキャリア・パスポートが作成されているものの、「キャリア・パスポートと『志シート』の関係が分かりにくい」「キャリア・パスポートの具体的な活用の仕方が分からない」「学校間での引継ぎをどうするか」などの疑問や課題が挙げられております。

そこで、これまでの志シートを、小学校から中学校の児童生徒の発達の段階を踏まえ、すべての学年に対応できるように改良し、キャリア・パスポートの作成に生かすことができるようリニューアルしました。

また、志シートの改良に伴い、キャリア・パスポートの作成・活用について、改めて確認することができるよう、本参考資料を作成しました。

キャリア・パスポートを効果的に活用することで、児童生徒が自身の変容や成長を自己評価し、自己のキャリア形成と自己実現につなげるとともに、今後の「みやぎの志教育」のさらなる充実につなげていただければ幸いです。

宮城県教育委員会

キャリア・パスポートとは

小・中学校，義務教育学校，特別支援学校，高等学校での諸活動について

特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し

自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら

児童生徒が自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオのこと。



その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

【文部科学省「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項より一部抜粋】

キャリア・パスポート の内容

※ 各地域・各学校で柔軟にカスタマイズされることが前提となっている。

◇ 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるもの。

◇ 小学校入学から高等学校卒業までの記録を蓄積することを前提とした内容。

◇ 各シートはA4判（両面使用可）に統一し、各学年での蓄積は数ページ（5枚以内）。

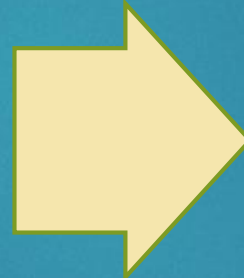
◇ 大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わるることができるもの。

◇ 「教科学習」「教科外学習」「学校外の活動」の3つの視点から児童生徒が記録した、日常のワークシートや日記、手帳や作文、「志シート」などから基礎資料を作成。

例えば…



- ◇ 学級活動で記録した年度始めの抱負や年度末の振り返りや行事のまとめ
- ◇ 教科の学習で使用したワークシート
- ◇ 道徳科のワークシート
- ◇ クラブ活動や部活動の記録
- ◇ 地域での活動の記録
- ◇ 習い事の記録



【基礎資料】

学級活動
教科の学習
ワークシート

日記・手帳
作文・その他
の記録

志シート

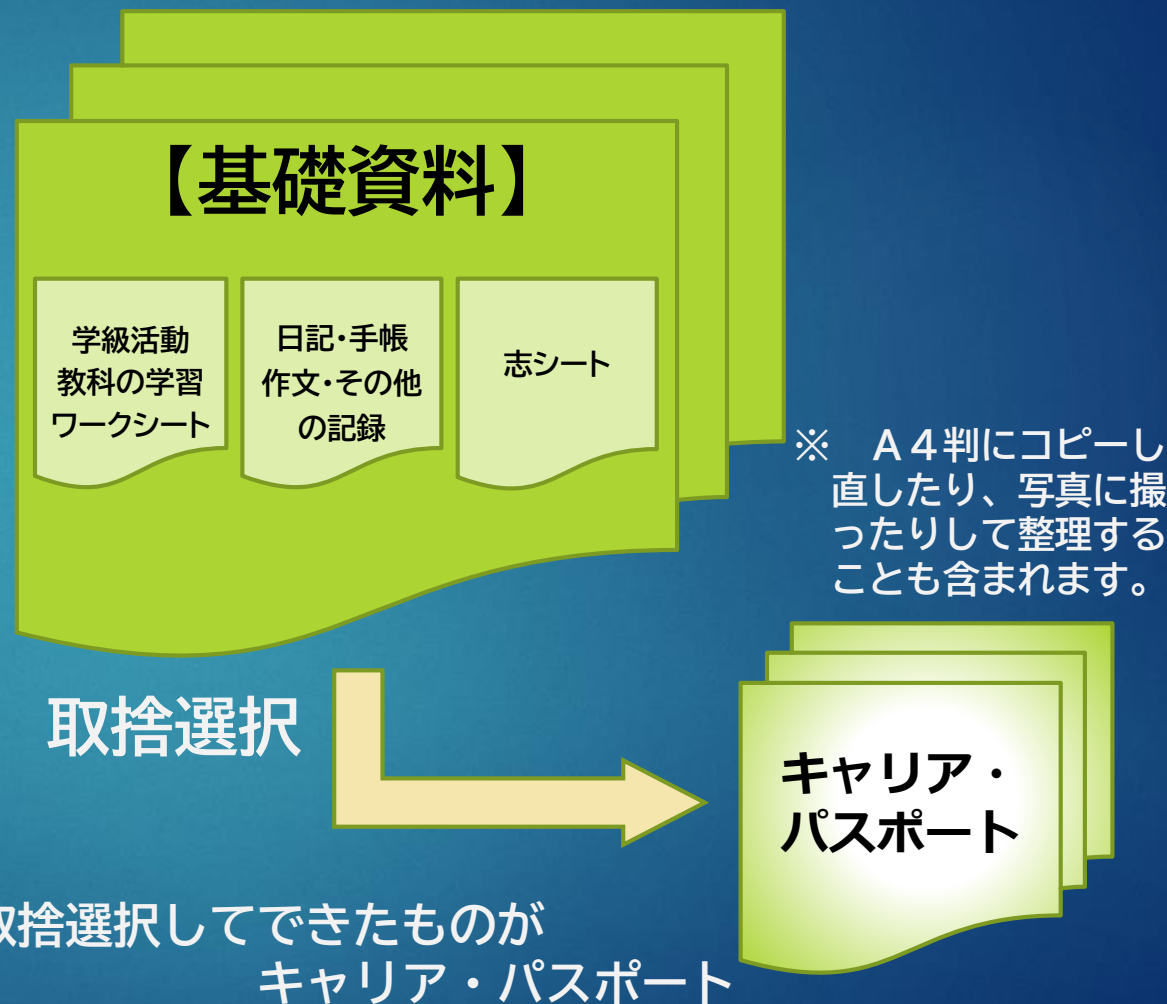
※ 蓄積については、ファイルに綴じるなど各学校等で工夫が求められる。

- ◇ 小学校から高等学校まで記録を引き継ぐために、基礎資料から中・長期的な振り返りを見通しを持つことができるように取捨選択する。

注意することは…



- ◇ 児童生徒が自分自身で取捨選択する。
- ◇ 自身の変容や成長を自己評価できるように、引き継ぐ時期（学期や学年など）を設定する。
- ◇ 各学年でA4判5枚以内（両面可）
- ◇ 教師、児童生徒、家庭で事前に共通認識をしておく。



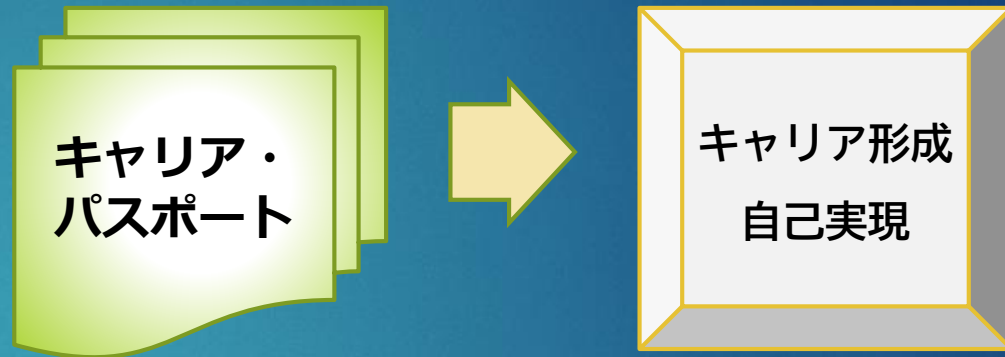
- ◇ キャリア・パスポートは小学校から高等学校まで活動を記録し蓄積する教材であることを踏まえ、引き継ぐだけでなく、児童生徒一人一人のキャリア形成と、自己実現に向けた指導を行う際に活用する。

例えば…

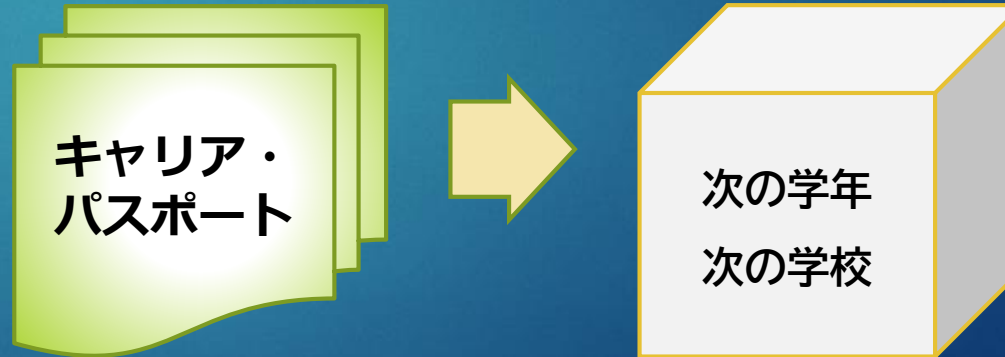
- ◇ 学級活動で、キャリア・パスポートを用いて、話し合ったり、意思決定を行ったりする活動に生かす。
- ◇ 昨年度のキャリア・パスポートを振り返り、新年度の見通しに生かして目標を立てる。

※ 引継ぎは、学年間は教師間、校種間は児童生徒で行うことが原則。

【活用する】



【引き継ぐ】



キャリア・パスポート活用の留意点

キャリア・パスポート

◇ 学級活動において活用する教材であるため、学級活動の目標・内容に即していることに留意。

◇ 見通し・振り返りに生かすことが大切。

◇ 引継ぎは、学年間は教師間、校種間は児童生徒が原則。
※ 特に中学・高校間での確実な引継ぎに留意。

◇ 書くだけの時間とせず、話し合いを生かして意思決定することが大切。

◇ 管理は原則学校で行い、個人情報保護や記録の紛失には十分留意。

◇ 基礎資料等が学級活動に偏らないように留意。

◇ そのまま学習評価とすることは適切でないことに留意。

◇ 自己理解のために作成するものであり、他人に見せることを想定していないことに留意。

キャリア・パスポート 指導上の留意点

① 教師・児童生徒・家庭や地域との共通認識の下で

※ 年度始めに、何のために・どのように取り組むかを共通認識することが、キャリア・パスポートの効果的な活用につながる。

例えば、

- ◇ 教師：職員会議・学年会を利用
- ◇ 児童生徒：学活の時間を利用
- ◇ 家庭：学校・学年だよりを利用
- ※ 学年である程度の統一が必要

② 教師や家族など周りの大人からの温かい言葉掛けを

※ 振り返りに対するコメントや面談等の機会を利用してフィードバックし、児童生徒の自己有用感や自己変容の自覚につなげる。

例えば、

- ◇ 努力や進歩を認め、褒める言葉
- ◇ その取組が何につながるかを価値付ける言葉
- ※ コメント以外にも伝える工夫

③ キャリア・パスポートの意義や目的を理解した上で

※ 取捨選択して、次の学年に引き継ぐのは、自身の変容や成長を自己評価につなげるため。

例えば、

- ◇ 振り返りの記録が書けなくても良い。
- ◇ 何年か後に振り返ったとき、書けなかった過去を乗り越えた今の自分の成長の気付きにつながる。

④ キャリア・パスポートの作成に「志シート」を活用する際には

※ 基礎資料として活用することが可能。

例えば、

- ◇ 児童生徒がまとめた複数の「志シート」から自分自身で取捨選択し、キャリア・パスポートとする。
- ◇ 年度当初に見通しとしてまとめた「志シート」を基に話し合い活動を実施し、振り返りをまとめる。

文部科学省・NITSの キャリア・パスポート 関連情報URL（参考）

◇ 「キャリア・パスポート」例示資料等について（平成31年3月29日）



◇ 「キャリア・パスポート」の学年・校種間の引き継ぎについて（令和3年2月19日）



◇ 「キャリア・パスポート」Q&Aについて（令和4年3月改訂）



◇ NITS 校内研修シリーズ No.109 「キャリア・パスポート」（令和4年3月28日）



「志シート」の活用について

【志シートの主な改良点】

- ◇ 小学校から中学校のすべての学年に対応しています。
- ◇ キャリア・パスポートの作成に生かしやすいよう複数枚の構成にしています。

◇ 志教育に係る教育活動で、ワークシートとして活用できます。

◇ キャリア・パスポート作成の際の基礎資料として活用できます。

◇ 本人・保護者との面談の際に、情報共有の資料として活用できます。

◇ 学期末や学年末の振り返りの際に、子供の変化を捉え、言葉がけや励ましに活用できます。

◇ 各地域や各学校・学年の実情に合わせて、カスタマイズして活用できます。